

2025年難関大学入試英語の概要

難関大入試で求められる英語力の傾向と概要

1 学期講習

第 2 回

2025年早稲田大学



英語科講師 岡本眞一郎

令和7年5月24日(土)

Fujimi Senior High School



	5年以上前	2025年	結 論
語 彙	単語帳の範囲	英検準1・1級	劇的難化
文 法	文法書1冊の範囲	文法書1冊の範囲	従来通り
構文・解釈	複雑・前後の文脈	基本構文の範囲	基本構文の徹底
英文の量	2,000語程度	3,000語超も	速読内容把握
背景知識	一般的	多分野・最新	社会情勢把握
設 問	易～難が混在	英語の設問増	速く正確に



2025年 早稲田大学国際教養学部

本文 1137 words 問題文 416 words

第1パラグラフ

コーンフレークとヨーグルト、ケチャップとサラダドレッシング、炭酸飲料とスポーツドリンク—これらに共通するものは何でしょうか？それは、大量の砂糖です。甘いものは、私たちの周りにあふれています。そしてそれは、私たちの体に(1)、肥満の原因にもなっています。実はこの「甘いもの」は、長い間、**構造的な不平等**を再生産してきた食料システムに根ざしています。**奴隷制度や植民地主義から、現代の食品産業に至るまで**、砂糖を多く含む食品は、**安価**で簡単に手に入るものとなり、社会的に弱い立場の人々のもとに行き渡っています。私たちは「甘いものを(2)のは生まれつき」と思いがちですが、それだけがすべてといわけではないのです。



第2パラグラフ

人類の歴史のほとんどの期間において、「結晶状の砂糖」は存在しておらず、人々は蜂蜜や甘く煮た豆、もち米、大麦、メープルシロップなどで満足していました。しかし、今から2,000年以上前、ベンガル地方の農民たちが、サトウキビの汁を煮詰めて、黒くて甘い塊を作る方法を発見しました。ただし、それだけで砂糖の消費が急増したわけではありません。実際、わずか200年前でさえ、最も裕福な国々においても、人々が年間に消費する砂糖はせいぜい数キログラム程度でした。しかし今日では、多くの高所得・中所得国では、1人あたり年間30～40キログラムもの砂糖を消費しており、アメリカでは年間45キログラム以上にもなります。しかもこの数字には、アメリカの飲料業界で広く使われている「高果糖コーンシロップ(HFCS)」は含まれていません。これはカロリーの高い甘味料です。いったい何が起きたのでしょうか？この砂糖消費の爆発的な増加は、帝国主義と近代産業社会の台頭と密接に結びついています。砂糖は都市部の労働者にとって安価なカロリー源となり、工業化によって精製された砂糖が大量生産されるようになったのです。

第3パラグラフ

もともと、精製された白い砂糖の結晶は非常に貴重なものであったため、皇帝やラージャ(インドの君主)、カリフ(イスラム世界の指導者)たちは、それを彫刻の形に成形させ、豪華な食卓を飾らせました。砂糖はまた、薬としても(3)いました。少量の水に溶かして飲むことで、腸の病気に苦しむ人々に驚くほどの効果をもたらし、一般的に衰弱した身体を元気づける力があると信じられていたのです。アジアでは、砂糖や他の香辛料、貴金属を積んだ長いキャラバン隊が砂漠を越えて行き来していました。実のところ、ヨーロッパはこの砂糖の歴史においては(4)にすぎませんでした。しかし、すべては15世紀以降に変わり始めました。西ヨーロッパの都市部で砂糖が次第に消費されるようになったのです。1500年頃には、ヨーロッパでの砂糖需要が地中海地域での生産を上回るようになり、やがて砂糖生産は新たなフロンティアを見つけることになります。それが「アメリカ大陸」でした。そして悲劇的なことに、それは何百万ものアフリカ人の奴隷化へとつながりました。アフリカで拉致され、大西洋を渡る輸送に耐えた約1250万人のうち、実に3分の2が砂糖プランテーションに送られたのです。アメリカ大陸全体のあらゆる種類のプランテーションで労働条件はひどいものでしたが、とりわけ砂糖プランテーションでの環境は最悪でした。



第4パラグラフ

フィラデルフィア、ロンドン、パリの砂糖の消費者たちは、印刷技術の急速な発展によって広まった情報により、頻発する奴隷反乱の報道などを通じて、これらの恐ろしい現実を徐々に認識するようになりました。とくに読み書きのできる都市部の少数派、特にクエーカー教徒として知られる宗教団体の人々は、奴隷制度を「死に値する罪」としてますます強く非難し、反対の声を上げました。ある有名なパンフレットでは、奴隷の血で「染みのついた砂糖」の消費が強く非難されました。そして、何十通もの請願書に何十万人もの署名が集まった結果、1807年、イギリス議会は自国の支配領域内での奴隷貿易を禁止する決定を下しました。しかし、それでも砂糖の生産と消費は続きました。ドイツ人発明家カール・フランツ・アシャールトは、サトウキビではなくテンサイ(甜菜)からショ糖を抽出する工業的な製法を開発しました。また、他の起業家たちはインドとの貿易の拡大を提唱し、より大量に、しかも安価に砂糖を手に入れることができると主張しました。とはいえ、インド産の砂糖も、ビート(甜菜)由来の砂糖も、奴隷制度を消し去ることはできませんでした。1860年代には、ヨーロッパや北米の工業労働者が消費していた砂糖の半分以上が、依然として奴隷によって生産されたものでした。砂糖は、当時世界で最も取引されていた商品だったのです。



第5パラグラフ

政府の補助金政策は砂糖の過剰生産を後押しし、それが価格の持続的な下落を招き、結果的に消費の促進につながりました。**19世紀後半のヨーロッパ**では、多くの農民が小麦からビート(甜菜)栽培へと転換し、**ビート糖の生産が増加**しました。その結果、1900年にはビート糖が国際的に取引される砂糖の50%を占めるまでになりました。**一方、アメリカは1898年以降、ハワイ、キューバ、プエルトリコ、フィリピンなどに帝國的な支配を広げていく中で、強力なビート糖産業を国内にも築きました。**1934年にはアメリカ連邦政府が「砂糖プログラム(Sugar Program)」を導入し、アメリカの農家を保護すると同時に、**アメリカの影響下にある国々にとっての販路も確保**しました。20世紀を通して、世界最大のビート糖およびサトウキビ糖の輸出国は、**過剰生産や価格破壊(いわゆる「ダンピング」)**を抑制しようと試みました。特に、**1902年の「ブリュッセル条約」や、1937年の「国際砂糖協定(International Sugar Agreement)」などの国際条約が締結**されました。**しかし、これらの協定は長続きせず、安価な砂糖が世界市場にあふれ続ける事態は止まりませんでした。**

第6パラグラフ



でも、消費者はどうだったのでしょうか？彼らはどうやって、1800年ごろには1週間にスプーン一杯程度だった砂糖を、現代の平均的なアメリカ人が毎週ほぼ1キログラムも平気で消費するようになったのでしょうか？19世紀、都市の労働者たちはしばしば栄養不足で、エネルギーが足りていませんでした。当時の医学的な常識によれば、「適切な食事に必要なのは十分なカロリーだ」と考えられており、砂糖はそれを満たす最も安価で即効性のある方法でした。アメリカ陸軍の幹部たちは——ヨーロッパや日本の軍隊の幹部も同様に——新兵に支給する食料に砂糖を加えることで、持久力を高めようとしていました。その結果として、チョコレートバーやコカ・コーラは、ナチス政権からヨーロッパを解放するアメリカ軍と共に戦場を移動していったのです。

第7パラグラフ



しかし、私たちの食べ物に砂糖が大量に加えられるようになったことには、何の警告もなかったわけではありません。19世紀初頭にはすでに、医療関係者の間で「砂糖・肥満・現在でいう2型糖尿病」のあいだに重要な関連があるのではないかという推測がされていました。1860年代には、イギリスのウィリアム・バンティングが、炭水化物や砂糖を控える最初のダイエット法を出版し、広く人気を集めました。しかし、彼の功績はその後の数十年間でほとんど忘れ去られてしまいます。もちろん、当時の人々も「砂糖を大量に摂れば太ったり病気になったりする」ことはある程度知っていました。それでも、砂糖業界や飲料業界は、その逆を人々に信じ込ませるために、宣伝に力を注いだのです。たとえば、砂糖会社は「本当に心臓や血管に悪いのは砂糖ではなく脂肪だ」とする研究に資金を提供し、一方で飲料は「楽しさ」や「活動的なライフスタイルの一部」として、しばしば魅力的に広告されました。

第8パラグラフ



それでもなお、砂糖の歴史は、私たちが今直面している健康危機を乗り越えるうえで重要な教訓を与えてくれます。それは、「私たちが現在消費している砂糖の量は決して自然なものではない」ということを示しています。これは、政治的・社会的・経済的なさまざまな力が重なり合った結果なのです。私たちは、砂糖の過剰摂取が単に「個人の選択」によるものだと考えるのではなく、長い年月をかけて私たちの食べ物の多くが「工業製品」と化してきたことの帰結であると理解する必要があります。その過程において、砂糖は中心的な役割を果たしてきました。砂糖の歴史の次の章をどう描くかは、私たち自身にかかっています。特に、私たち市民が政府に対して、産業界の利益だけでなく、公衆の健康を守るよう求めていくことが求められているのです。

(1)各パラグラフに関して、次の各文を完成させる最も適切な選択肢を選びなさい。

- A: 医療界が早くから警鐘を鳴らしていたにもかかわらず、砂糖および飲料業界は砂糖の健康リスクを軽視し、別の説明を広めた ⇒脂肪が悪者だとする研究への資金提供などが具体例 ⑦
- B: ロンドン(＝イギリス)が奴隷貿易を禁止したにもかかわらず、砂糖の生産は奴隷労働に大きく依存し続けた ⇒1807年の奴隷貿易禁止後も、奴隷による砂糖生産は続いており、1860年代でも約半分が奴隷によるものだった ④
- C: さまざまな対策にもかかわらず、砂糖業界は過剰生産と価格下落を経験した
⇒ブリュッセル条約や国際砂糖協定などの取り組みが失敗に終わったことが述べられていた ⑤
- D: 砂糖業界の一部は、製品の宣伝方法について意見が分かれていた ⇒言及なし
- E: 現在の砂糖の過剰摂取は個人の選択だけでなく、食品が工業製品化された過程によるものでもある⇒最後に明確に述べられている中心的な主張 ⑧
- F: 砂糖は高カロリーの食を手軽に得る手段として見なされるようになった ⇒都市労働者や軍関係者にとって安価なカロリー源となったことが述べられていた ⑥
- G: 人々がサトウキビの汁を煮詰める方法を学んだときに砂糖の生産が始まった ⇒ベンガルでのこの技術の誕生を紹介 ②
- H: 砂糖を多く含む食品は、歴史的不正義に根ざした食料システムの中にあふれている ⇒奴隷制度・植民地主義から現代の産業構造までを通じて構築されたことが本文の主要テーマ ①
- I: 1902年のブリュッセル条約は、市場の砂糖生産を制限することに成功した ⇒うまく機能しなかった
- J: 1400年ごろまでは、砂糖は主にアジアで高級品として取引されていた ⇒ヨーロッパがこの砂糖の歴史の中で周辺的な存在であり、アジアでの取引の方が中心であった ③

(2) 次の文は本文中の下線部の語句に関連しています。それぞれの文を完成させるのに最も適した選択肢を選びなさい。

1. wreaks havoc の意味は

☒ A 被害を与える B 切り抜ける C 栄養を与える D におう E 刺激する

2. craving の意味は

A 彫刻 B 泣くこと C 遅らせること ☒ D 強く欲しがること E 恐れること

3. coveted の意味は

A 改宗された B 覆われた C 無視された D 影響された ☒ E 熱望された

4. marginal の意味は

A 壮大な B 主流の C 否定的な ☒ D 重要でない E 自発的な

5. rein in の意味は

☒ A 抑制する B 話し合う C 楽しむ D 避ける E 繁栄する

6. devouring の意味は

A 注意深く食べる B 罪悪感を持って食べる C ゆっくり食べる

D いやいや食べる ☒ E がつつ食べる

7. confluence の意味は

A 感謝 ☒ B 結合 C 対立 D 政府 E インフレ

(3) 本文の内容と一致しない文を4つ選びなさい。5つ以上選ばないこと。

A 初期の工業的な砂糖生産では、人間の血による汚染が衛生上の問題だった。

⇒ 記述なし

B 現代の食品の多くは、今や工場で生産されている。

⇒「我々の食料の多くが工業製品になった」ことが述べられている

C 世界最大のオートミールブランド「クエーカー」は、奴隷制度への抗議のために製品に砂糖を使ってこなかった。

⇒「クエーカー教徒(Quakers)」が奴隷制度に反対したことが書かれている

D 砂糖の生産は、歴史における帝国主義の崩壊の要因の一つと考えられている

⇒真逆。砂糖の生産と消費の拡大が帝国主義と密接に関わっていたことが述べられている

E かつて砂糖は薬として使われていた。

⇒「少量の水に溶かして飲むことで、腸の病気に効果がある」などと書かれている

F 私たちが現在消費している砂糖の量は、生まれつき人間の体に自然なものである。

⇒「これは政治・経済・社会の力が重なった結果であり、自然なものではない」と明言

G クエーカー教徒は奴隷制度に反対する声を上げた。

⇒「クエーカー教徒たちは、奴隷制度を重大な罪としてますます強く抗議するようになった」と明記

H アメリカはハワイやキューバなどにおいて、強力なビート糖産業を築いた。

⇒1898年以降アメリカがハワイ・キューバなどを支配下におき、ビート糖産業を築いたと明記

2025年難関大学入試英語の概要

難関大入試で求められる英語力の傾向と概要

1 学期講習

第 3 回 2025年国立大学



次回 令和7年6月21日(土)

2025年難関大学入試英語の概要

難関大入試で求められる英語力の傾向と概要

1 学期講習

第 4 回 今後の勉強指針



最終回 令和7年6月28日(土)



難第一志望大合格

熱く真摯に頑張ろう！